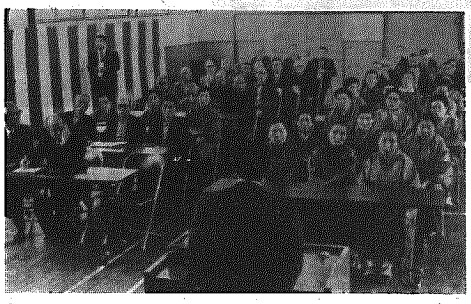
昭和51年度 高令者大学はじまる

今年で六年目を迎えた横越村高令者大学講座の開校式が開かれました。この高令者大学は長い歴史と参加される方々の熱意で県下でも有名な大学となっています。

今年も八六名の高令者の方々が全村から集られました。男子五四名、女子三二名、最高年令の方は八十五才になられます。約半分の方が今年新しく参加される方です。毎月一回公民館で開催され、健康の問題、村行政、教育、郷土史、昔話、宗教、体育、交通安全などについて勉強すると共に、楽焼や俳句などの創作活動、体育レクリーションなどを学習し、村の高令者の方々が一しょになって仲間づくりをするよい機会になって行きます。

開講式には下越教育事務所の主事さん、助役、議長、教育長さんなど参列されて盛大に行われ、ここに今年一年の抱負を語り合っていました。



明治の青年は学ぶ　開校式

文化団体紹介

小阿賀吟社（俳句）

昨年の十二月に「横越村文化団体協議会」が結成されました。この団体は、当村における総合文化団体であり、各種の文化団体との連絡協調を図り芸術文化の健全なる発展と高揚に努めようとするものです。現在一四団体あり約二百十名の団員がいます。今月からその団体を紹介します。

東城素秋顕彰句碑（木津・円通寺）

終戦後発足した小阿賀吟社も何時のまにか三〇年、今更ながら感慨深いものがあります。

現在顧問に東城素秋（本名守一郎）今井天花（本名金男）両氏を戴き、毎月一回の兼題を持ちより当日の席題と合せて一夜の作句研究をかかさず行っております。又公民館が公募される新春俳句大会と発表誌「横雲」は、私達が主導的立場にあることはすでにご承知のことと存じます。

加えて大江山地区同好士と年三回の親善俳句大会を実施し、交流を深めています。以前は、佐野良太師の「みのむし」に属する者が大部分で他に「まはぎ」あるいは日報俳壇等を根拠に活躍していた人達も若干あったが、いわゆる同好的な性格を持った集りで特に佐野先生の死後はその傾向を強くしております。

中でも昭和四十三年十一月民選初代村長、佐藤菱林寺師の追悼句碑建立を、公民館落成記念行事として挙行し同時に県会俳句大会をやり、主選に加藤楸邨事生を仰ぎ、県知事、県議長、村当局のご協賛を得て近年まれな盛会な大会でした。

四十六年には東城素秋顕彰句碑建立、同時に小阿賀吟社二十五周年俳句大会を主選に日報俳壇の細見綾子先生をお まねきし、県下各地の稚兄姉から絶大なるご支援と玉稿をたまわり盛会に終りました。

ともあれ三十年の歴史の中には、佐藤横雲（忠司）の夭折、伊藤信也、大竹水峯（智）各氏の転出、或いは加藤喜科、笠原茶山氏の新参加、並びに往年の名俳人、今井南呂阿部春翁、佐藤やすい、石山二咲、石井楽秋氏等のご参加を得て、一段と精進を重ね斯道の探究に意をそゝがねばと改めて誓いを新にしています。

時の流れの如く静かなうちにも、移り変りはあったとは云い、此の後も永く続けて行きたいと念願している次第です。

子ども会リーダー研修開く
1泊2日の楽しい集い
—（横越新田地区子供会）—

どこの部落にも「部落子供会等」があると思います。それらの会は区長さんをはじめP・T・Aの役員の方が指導にあたっておられることと存じます。

けれども、「子供会」の行事計画については、ほとんど子供達に立案させているのが現状でしょう。子供達は、自分達なりに私達は地域とどういうかかわりあいを持っているかを考えていくことができるのです。特にこれは高学年になりますが。

この高学年（五・六年）を対象にした、「横越新田子供会リーダー研修会」が去る五月十五日（土）十六日、一泊二日の日程で公民館において開催されました。行事内容等を簡単に紹介しましょう。

◎第一日目

毛布や洗面用具をふろしきにつつんで、子供達が元気にやってきました。一時三十分開会式です。

オリエンテーションのあとで二時から公民館の職員の皆さんから、いろ〳〵なゲーム、歌を指導してもらいました。（写真）講堂がわれんばかの拍手。

その後は、朝食準備、朝食、講義及び実習（テントのはり方）、映画の感想文作成、午後からはレクリエーション。そして館内の整備をし反省会をひらき閉会式（午後四時）です。計画のだんかいでは、食事はできるだろうか。話合いのリードは誰れかがうまくやってくれるだろうかと心配していたのですが、五・六年は指導さえよくやれば我々大人が考えていたよりはるかに上手にできるものだなあと、感心しました。

館の腰跡は、横越の上部落にあり、新潟市の阿賀野川浄水場のあるところ。以前は火葬場（野焼きを行っていた）で部落から少しはなれており田んぼのまんなかにあった。周囲は杉の木が茂り昼通っても ぞう！とし、気持の悪い場所であった。

村指定の史跡の紹介 ③

館の腰跡（たてこし）

横越の地が新発田藩領となる以前の十六世紀までの統括の形態は不明であるが、年貢を取っている村役人が居住していたことは想定できる。

館の主はおそらく、村役人が部落を私有地化して君臨していた有力者であったであろう。村の支配者たる者の屋敷跡たるこの館の腰かたは、その事を裏付けるにたる物が過去にかなり出土しているらしい。この付近の耕作者、阿部氏は、一、八九八年（明治三十一年）小皿（八枚）と茶臼を発掘しこれを大切に所蔵している。

小皿には菊の花が描かれているが、花びらが皇室の十六枚に比して一枚少ない十五枚であることが興味深いと同時に、相当の権力者が館の主であったことを教示しているようである。

第七回俳句作品公募
坪谷耕雨氏が一位

横越村公民館では第七回村民俳句公募を行いました。公募句題に「春の宵、春宵、草餅、草の餅、蕨餅、蘆の角、蘆の芽、あしかび、角ぐむ蘆」等をそれぞれ選びました。多くの投稿者があり、その結果がまとまりましたのでお知らせします。今後は特に新人の投稿を歓迎します。

第七回俳句作品公募成績

一位　坪谷　耕雨（木津）　一七点
二位　神田　初鳥（横越）　一二点
三位　今井　秀虹（木津）　一二点
四位　佐藤　俊博（木津）　一〇点
五位　坪谷いわを（木津）　一〇点
六位　南場　愛子（亀田）　九点

高点句賞

一位　今井　天花　六点
舟つなぐ　杭木の姉や　芦の角
十位　神田　初鳥　三点
鉄矢板　打ち込む岸や　蘆の角
二位　坪谷　耕雨　六点
春宵の　螢下鯉めぐ　コケンの鉢
三位　佐藤　俊博　四点
春宵や　爪を染めたる　娘の膿
四位　田村　山火　四点
諍ひし　妻の早寝や　春の宵
五位　伊藤　吉作　四点
籾殻を　焼く畚残りて　春の宵　四点
六位　笠原ミツノ
船それば　川おだやかに　あしの角
七位　今井　秀虹　四点
蛇籠組む　土工に唱や　芦芽吹く　三点
八位　坪谷　耕雨
嫁と妻の　笑い直なる　春の宵　三点
九位　南場　愛子
阿賀の風　ゆるみ岸辺の　芦芽ぐむ　三点
十位　神田　初鳥

昭和52年度採用
新潟県職員採用試験案内

1.試験職種

（上級）

一般行政、福祉行政、土木農業土木、農業、林業、獣医師、薬剤師、保健婦、司書。

（中級）

保母、農業改良普及員、生活改良普及員、司書。

以上のうち任意の一職種受験できます。

2.申込の方法

申込用紙に必要事項を記入し、次へ提出して下さい。

県庁分館内
新潟県人事委員会事務局

3.受付期限

昭和51年6月21日（月）まで受付事務は、平日は午前九時から午後五時まで（土曜日は正午まで）

郵便申込の場合は、6月21日消印あるものまで受付）

4.その他

◎申込用紙は、県人事委員会事務局へ請求下さい。

◎詳しいこと等は、県人事委員会事務局へお問い合せ下さい。

電話〇二五二(四)五五一一
内線三四八一～三四八三

第八回 俳句作品公募

新しい方の投稿を期待します

1.公募句題（通じて六句）
風鈴（風鈴売）
蘆切（行々子、蘆雀）
日盛

2.〆切　七月三十一日

3.選者
野崎　芦舟（大江山）
桑野　松雪（大江山）
小野　芝春（中条）
藤田　秋月（新津）
加藤　喜秋（木津）
あがきよし（横越）
田中　都郎（公民館長）

連Pの役員きまる

統合小学校の発足以来、PTAの組織づくりが進んでいたが、この度連合PTAの役員が次の通り決定しました。

会長　佐久間正夫（川根谷内）
副会長　浅見　良一（沢海）
本間　政範（横中校長）
顧問　村長、教育長、公民館長、教育委員長、
幹事　真木　清澄（横中教頭）
佐藤敬次郎（横小〃）
県P理事　佐久間正夫
代議員　浅見　良一
〃　本間　政範
〃　遠藤　秀雄（横小校長）

庭園シリーズ 鹿明

程父の代に先住者より鹿を譲り受けて移ったのが、明治二十年今より約九十年前、その当時より梅、オコウ等の古木と桃、ウメ、しの平庭であった。昭和二十三年頃低い雑山と池を造りその後石を配し現在に至る。古い庭木の樹令は約百五十年経ち樹勢は少し衰えているが、梅はまだ春には匂よばんの花を咲かせており、親子四代にわたり手入れし育てて来たものである。